

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業
(周辺地域と連携した甌島地域の観光活性化に係る調査事業)

－ 調査報告書 －

令和6年2月28日

株式会社コムブレインズ



甌島への定期船の発着港をもつ薩摩川内市及びいちき串木野市（以下、「両市」という）が連携し、本エリアのアフターコロナ対策として広域観光モデルを構築するとともに、行政主導から民間発案の主体的活動を起動し、島内事業者間の関係強化と両市本土事業者の連携で、広域観光を軸とした「新しい甌の楽しみ方（＝付加価値）」を創造し、“稼げる観光”実現を目指す必要がある。

本事業は、甌島、薩摩川内市本土、いちき串木野市本土（以下、「3エリア」という）が連携して広域での観光活性化を図ることを目的として、令和3年度からスタートした。

初年度のコロナ後の地域の現状把握と課題整理を踏まえ、2年目の令和4年度には専門家の知見提供を通じて、ポストコロナの観光流動の新しい潮流を学び、3エリアの広域観光の可能性について検討、協議し、3年目となる令和5年度には、ポストコロナの新しい行動様式を捉えた事業のひとつである「多拠点居住サービス」を提供する企業（以降、協力企業）の協力を得て、3エリアでの同サービスの滞在拠点開発を行うとともに、実際に会員に3エリアでの滞在を体験してもらうモニターツアーを開催し、本事業で新たに設定した「中長期滞在」を志向するターゲットに対する3エリアのポテンシャルを検証することとした。

今年度事業では、下記4項目に留意し、3エリアの広域的な観光誘客の仕組みづくりを目指す。

（１）広域連携体制構築

3エリア観光事業者の連携を進め広域連携の体制を構築

（２）広域ルート開発

3エリア回遊という具体的な滞在行動に結びつけるための体験型旅行商品等を検討

（３）プロモーション

本事業を象徴するプロモーションを実施し、3エリアの認知度向上を図る

（４）広域観光推進

検討した旅行商品等をモニターツアー等で実施・検証し、今後の活動の方向性を抽出

【事業内容】

（１）2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり（広域連携体制構築）

- 計画検討会 5回程度（参加者：事業者10名程度／観光団体3名程度／両市関係者等10名程度を含めて組織）
- 協議会（事業進捗の報告・共有）適宜（2回程度）（参加者：両市関係者10名程度を含めて組織）

（２）中長期滞在者をターゲットとした具体的な観光戦略の検討 （広域ルート開発、広域観光推進）

- ①体験型旅行商品の開発
- ②滞在拠点の開発支援（広域ルート開発、広域観光推進）

（３）継続的な魅力発信（プロモーション）

3エリアの特徴を組合せた魅力を言語化・ビジュアル化した発信を通じて、県内及び九州管内等での本地域の認知度向上を図る

【事業全体スケジュール】

		令和5年 8月	9月	10月	11月	12月	1月	令和6年 2月
マスター		キックオフ	活動方針・体制・役割分担の確認 具体的な取組み内容の協議検討	モニターツアー実施に向けた 準備調整	モニターツアーアンケート、インタビュー分析 令和6年度以降の中期的な活動方針、 令和6年度の活動計画のとりまとめ			
① 2市広域連携の更なる推進の ためのデザインづくり	計画検討会	検討会1回目		検討会2回目	検討会3回目		検討会4回目	検討会5回目
	協議会			協議会1回目	【トライアル展開】 モニターツアーの実施			協議会2回目
② 中長期滞在者をターゲットとした 具体的な観光戦略の検討	①体験型旅行商品	商品開発の方向性の整理 ・中長期滞在者を想定した内容検討 ・拠点運営事業者との調整		拠点事業者との 意見交換 ・拠点周辺の連携 事業者との調整	モニターツアーを経ての成果と課題の抽出 ・体験型旅行の充実に向けた活動方針の検討 ・拠点及び体験・飲食等関連事業者の拡大に向けた 取組みの検討			
	②拠点開発支援	拠点開発の方向性整理 ・行政の拠点開発支援内容の確認 ・協力企業によるサポート内容の確認		拠点事業者による 受入れ準備 ・両市役所による 支援の実行 ・近隣の拠点、家守との交流機会	モニターツアー協力拠点事業者へのヒアリング ・今後の拠点開発支援の方向性の検討 ・新規参画希望の事業者へのアプローチ ⇒協力企業との交渉調整			
(3)継続的な魅力発信 (プロモーション)		展開内容の検討 ・協力企業の支援 内容の確認 ・コンテンツ制作 準備	協力企業連携 ・モニター募集 ・オンラインイベント告知 ・関連記事掲載	告知ツール (例)観光案内所等でのポスター、チラシ、MAP等の展開	オンライン イベント	モニター ツアー 記事 露出	今後の3エリア広域連携の情報 発信についての対応検討 ・両市役所、観光団体の役割等 について検討	

事業報告書・令和6年度以降の中長期活動方針・令和6年度活動計画 納品

● 8/7 1回目計画検討会（キックオフ、今年度の活動方針、計画の確認）

・昨年度までの活動の振り返り、今年度計画の共有、今年度活動に関する協議 など

● 10/13 2回目計画検討会（中長期滞在者をターゲットとした取組みについての協議）

・これまでの進捗状況の共有、モニターツアー、オンラインイベントについての検討 など

○ 10/30 1回目協議会（途中経過の共有）

・モニターツアー、オンラインイベントの調整状況、今後のスケジュール等確認

● 11/6 3回目計画検討会（モニターツアー、オンラインイベントの振り返り）

・モニターツアー、オンラインイベント振り返り、今年度事業の着地、次年度以降の取組み方針について協議 など

● 1/18 4回目計画検討会（モニターツアー、オンラインイベントの振り返り）

・今年度事業の着地、年度内スケジュールの検討、次年度骨子（現状案）、次年度以降の取組み方針について協議 など

○ 2/9 2回目協議会（第5回検討会に向けた確認）

・検討会議題、資料の確認、年度末に向けてタスク確認

● 2/15 5回目計画検討会（今期の振り返り、次年度以降の取組み協議）

・今期活動の振り返り、専門家からの提言共有、次年度以降の取組み、R6年度実施内容について意見交換 など

■モニターツアー 11/2（木）～5（日） 4日間

■オンラインイベント 11/4（土）

(1)2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり（広域連携体制構築）

【実施内容】

●計画検討会 5回開催 ○協議会 2回開催

【総括】

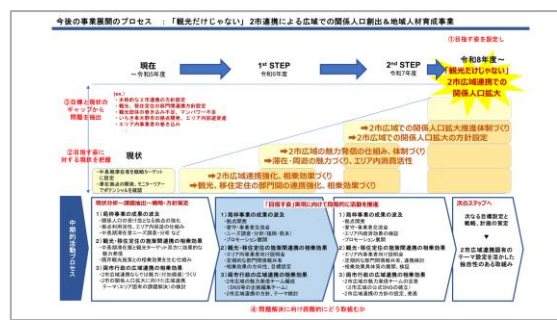
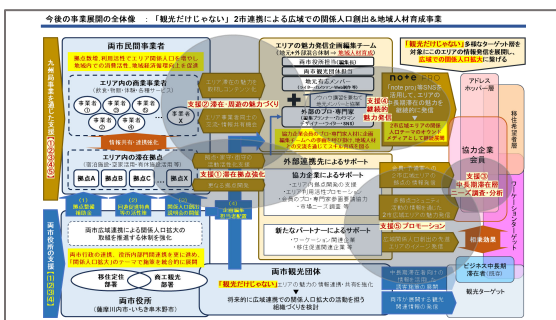
- ・当初計画通り、計画検討会5回、協議会2回を開催することができた。
- ・両市自治体担当者を中心に、2市広域連携推進のための協議が行われた。
- ・それぞれの市での観光の取組みが行われており、ある意味ライバル関係でもある両市が、双方が定期航路を持つ「甌島」を含む3エリア広域での観光流動の促進を図るというテーマで、専門家の指導も受けながら幅広い視点から議論を重ねることができた。
- ・専門家からは、昨年来、ポストコロナの新しい潮流としての「関係人口拡大」という視点から、観光だけに留まらない行動様式が急速に広がりつつある現状について知見提供を受けており、著名な観光地や資源に乏しいこのエリアは「観光とは異なる土俵」での戦いを検討するべき、という視点から、ワーケーションやアドレスホッパー等コロナ以降に増加傾向にある「中長期滞在者」をターゲットとした取組みへの助言を受け、多拠点居住サービスを提供する企業の協力を得て、中長期滞在者の受け皿となる滞在拠点の開発と拠点を中心とした関係人口拡大を目指して、議論を重ねてきている。
- ・今期も、第2回目の計画検討会で専門家から知見提供をいただき、今年度、拠点開発を進めることと並行して、「どう知らせるか?」「誰に知らせるか?」の2つの視点の重要性について助言をいただき、継続的な魅力発信には地元が主体となった「3エリアの魅力発信メディアづくり」が必要であり、それを具現化するスキームについて提言をいただいた。

（第2回計画検討会の様子）



- ・後述するモニターツアーを経て、3回目の計画検討会以降の議論では、中長期滞在者を対象とした取組みを進めるにあたって、移住定住部門との連携の必要性や既存の観光ターゲットを対象とした取組みとの相乗効果に関する意見が出され、それらも踏まえ、次年度以降の取組みについての検討を進めた。
- ・第4回目、5回目の計画検討会には両市役所から、移住定住部門の担当者にも加わってもらい、部署間の横断的な情報共有や連携した取組みにつなげることができたが、事業の窓口が観光部門であることから、「観光面での成果」を求める意見や、協力企業だけではなくサポート企業の参画を求める意見も出るなど、今期事業を実施したことで、新しい方向性や今後の取組みへの地元の考えを抽出することができたのは成果と言える。
- ・一方で、両市観光団体については、参加頻度も低く、本質的な議論や具体的な取組みに巻き込むことができず、今後の課題となった。両市観光団体ともに、マンパワー不足や既存業務対応で本事業への参画が難しい等、巻き込みに向けての課題は明らかになっているので、次年度に向けては、観光団体にとっての参加メリットや意義を明確にしつつ、活動にともなう費用面についても設定を検討し、年度当初からの調整を進めていくことができればと考える。
- ・年間を通じた協議を踏まえ、次年度以降の取組み方針や次年度の取組み内容に関しての議論と一定の整理が進み、令和6年度は、ここまでの取組みの成果をベースに、「3エリアの関係人口拡大」に向けた具体的な内実づくりに着手し、段階的に取組んでいくという枠組みについてはオーソライズを得ることができたと考える。

（第5回計画検討会 資料）



(2) 中長期滞在者をターゲットとした具体的な観光戦略の検討（広域ルート開発、広域観光推進）**【実施内容】**

- ①体験型旅行商品の開発 ②滞在拠点の開発支援（広域ルート開発、広域観光推進）

【総括】

- ・昨年度来、ポストコロナ以降、ワーケーションやスタディツアー、アドレスホッピング等、観光だけに留まらない関係人口の新しい潮流についての学びを得て、新しい潮流のひとつである「多拠点居住サービス」を提供する企業の協力を得て、3エリアでの同サービスの滞在拠点開発を行うとともに、実際に会員に3エリアでの滞在を体験してもらうモニターツアーを開催し、本事業で新たに設定した「中長期滞在」を志向するターゲットに対する3エリアのポテンシャルを検証した。
- ・モニターツアー企画にあたっては、両市行政・観光団体、観光関係事業者（拠点運営者）の協力を得て検討、準備にあたった。
- ・参加モニターには、拠点運営者に加え、行政・観光団体から収集した、3エリアの飲食店や体験等のスポットや観光情報等を事前に提供し、11月上旬の4日間の滞在期間に、実際に3エリアを周遊して体験していただいた。
- ・モニターツアー後のアンケートやヒアリング調査等から、このエリアでの滞在や体験に対する高い満足度が確認され、中長期滞在者ターゲットに対するこのエリアのポテンシャルや今後の体験型旅行商品（広域ルート開発や広域観光推進）に向けた取組みにも様々なヒントを得ることができたと考える。

（モニターツアー 初日オリエンの様子）：両市役所担当から参加モニターに両市の情報を説明／事務局からも事前にエリア内の情報を整理して提供



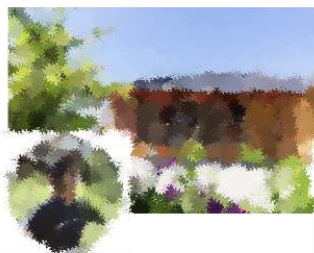
（参加モニターからのフィードバック）：第3回計画検討会でのオンラインヒアリング



- ・また、11月のモニターツアー後も薩摩川内市本土と甑島の2か所の拠点は順調に利用実績を重ねており、これまでの観光ターゲットとは異なる新しいターゲット層（＝中長期滞在者）の来訪につながったという効果も確認された。
- ・モニターツアー参加者アンケート等の収集分析を通じて、中長期滞在者をターゲットとした拠点活用について検討し、拠点を中心とした地域との交流、周辺エリアの観光への波及効果、提供できる付加価値等について、今後の活動の方向性を導き出した。
- ・今後は、いちき串木野市の拠点開発を進めるとともに、3エリア回遊の促進や滞在中のエリア内の消費拡大につながる取組みについて検討、実施していくと共に、「観光ターゲット」に向けた取組みや相乗効果を生む工夫等に取り組んでいくことが求められている。

（本事業で開発した拠点）

FUJIYA HOSTEL
甑島A邸



市比野温泉 湯宿弁天
薩摩川内A邸



室原邸(下甑島) ※2月末見込み
甑島B、C邸



(3)継続的な魅力発信（プロモーション）

【実施内容】

○協力企業連携オンラインイベント ○モニターツアーを契機とした情報発信

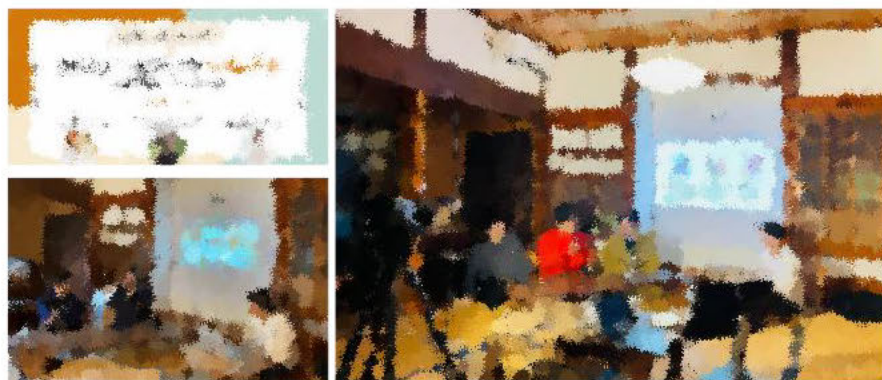
【総括】

- ・今年度展開は、中長期滞在者という本事業で設定した新たなターゲットを対象としたトライアル展開であることから、通常のメディアによるプロモーション展開ではなく、展開パートナーである協力企業の協力による情報発信を中心に、その他は地元メディアのパブリシティ展開による情報発信を想定して計画、実施した。
- ・協力企業連携オンラインイベントについては、事前の告知からオンラインイベント当日、事後の動画アーカイブ配信まで、協力企業の協力によって、同社の会員、および会員候補を含む多くの方に3エリアの情報を発信することができた。
- ・加えて、モニターツアー参加のモニターや同社関係者によるSNS発信の波及効果は、同エリアの拠点の稼働実績や具体的な人の交流につながっているなど、数値だけでは測れない効果があり、「関係人口」という観点からも、その成果が出ていることが確認されており、今後この成果をいかに積み上げ、波及させていくことができるか、が課題である。
- ・次年度以降の取組みの協議において、両市役所担当からは「プロモーションは伝える内実ができてからがするべきではないか。」との意見も出るなど、まずは協力先（次年度は今期協力企業以外も含む）との連携による情報発信を最大限活用しながら、伝えるべき内実を積み上げてからメディアを活用するプロモーションを検討するという方針で取組みたいと考える。

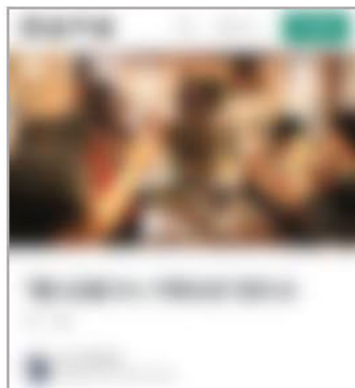
◆協力企業 連携オンラインイベント （視聴人数・開始時35名、最大数44名）

【本日のオンラインイベント】

月額制多拠点生活サービスを提供する株式会社アドレスと飫島を含む薩摩川内市、いちき串木野市の事業者がタッグを組んで実現した、中長期滞在者向けモニターツアー開催に合わせたトークイベント



◆モニターツアー参加者、関係者のSNSでの発信



◆今後の取組方針について

今期取組みの総括として、第5回計画検討会で今後の活動方針、次年度の取組み内容について協議を行った。

両市役所担当者から、今期活動を通じての率直な意見が交わされ、次年度以降の取組みに関しては、以下のような項目について検討することとなった。

1. 「観光」領域での成果づくり

「関係人口拡大」という目標に関しては、その視点の必要性は認識するものの、本事業の窓口である観光部門担当としては、そもそもが甑島を含む広域観光の活性化を目的として取組む事業であるため、「観光」領域でどのような成果をつくれるのか、という点も次年度以降は意識して取組む内容を検討したい。

2. 幅広い企業からのサポート

昨年度来、他拠点居住サービスを提供する企業の協力を得て、中長期滞在者向けの拠点開発に取組み、エリア内に複数の拠点が開設され、一定の実績もつくることができた。

次年度以降は、ワーケーションや観光誘客に関するサービスを提供する他の企業についても支援先としての検討を行い、多様な企業との連携を検討することとなった。

3. 観光団体の巻き込み

今期活動には、両市観光団体を巻き込むことができず、今後の課題となった。

両市団体ともに、マンパワー不足や既存業務対応で本事業への参画が難しい等、巻き込みに向けての課題は明らかになっているので、次年度に向けては、観光団体にとっての参加メリットや意義を明確にしつつ、活動にともなう費用面についても設定を検討し、年度当初からの調整を進めることとなった。

4. 内実をつくって発信する

次年度以降の取組みの協議において、両市役所担当からは「プロモーションは伝える内実ができてからがするべきではないか。」との意見も出るなど、まずは協力先との連携による情報発信を最大限活用しながら、伝えるべき内実を積み上げてからメディアを活用するプロモーションを検討するという方針で取組みたい。

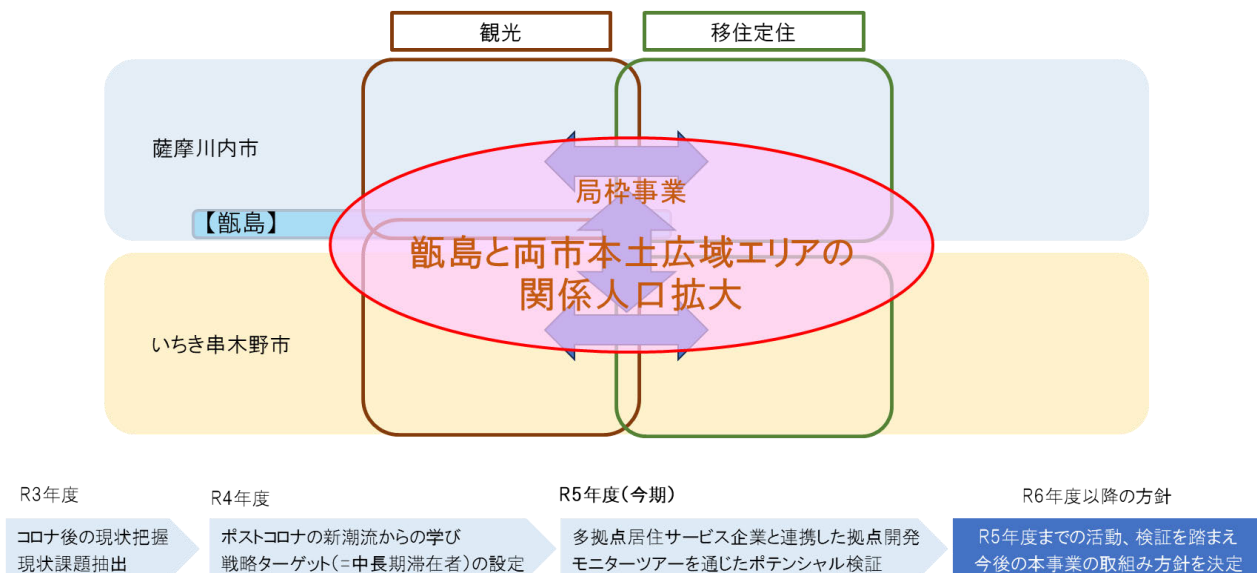
年間を通じた協議を踏まえ、次年度以降の取組み方針や次年度の取組み内容についての議論と一定の整理が進み、令和6年度は、ここまでの取組みの成果をベースに、「3エリアの関係人口拡大」に向けた具体的な内実づくりに着手し、段階的に取組んでいくという枠組みについてはオーソライズを得ることができたと考える。

◆今後の取組方針について

今後の本事業取組方針について

両市が推進する観光・移住定住の施策の取り組みが進められているところに、九州局枠で「甑島と両市本土広域エリア」を対象に両市が連携して取組む調査事業を行ってきた。

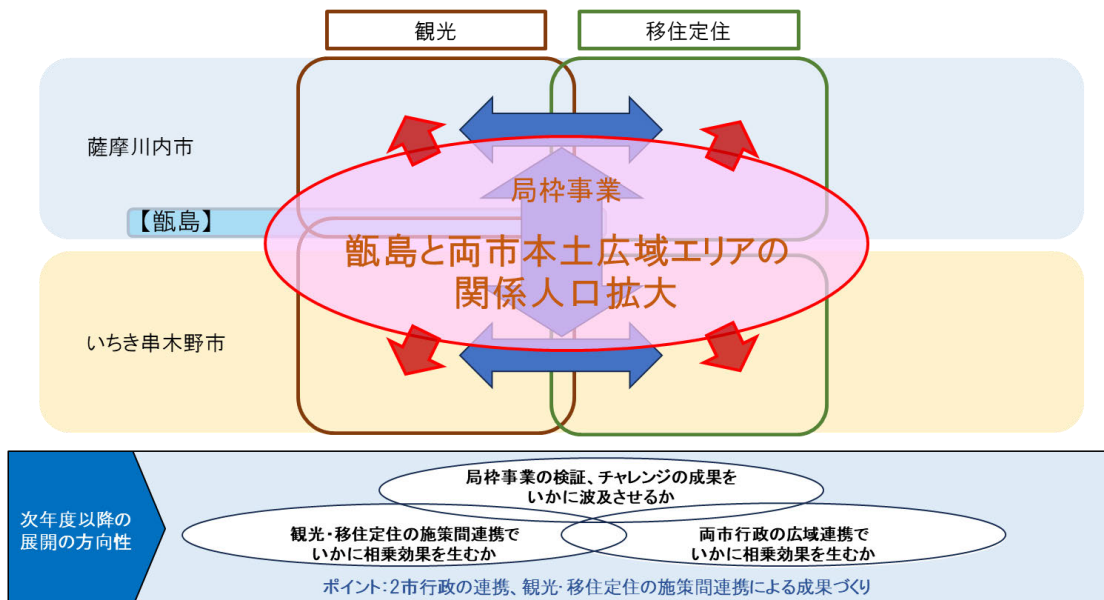
この事業を活用して、**両市行政の連携、観光・移住定住の施策間連携**、新たなターゲット(＝中長期滞在者)の設定と検証など、**様々な検証やチャレンジを行い、「観光だけに留まらない、関係人口の拡大」の視点から活動を積み重ねてきた。**



今後の本事業取組方針について

R5年度までの活動で、新たなターゲット層として中長期滞在者を設定し、多拠点居住サービス企業の協力の基、両市が連携して拠点開発に取り組み、モニターツアーを通じて、このエリアのポテンシャルには一定の手ごたえを得た。

R5年11月に薩摩川内市本土、甑島にそれぞれ多拠点居住サービス企業の拠点を開設、以降3か月間で50件を超える滞在実績となり、本事業を契機とした**新たな人の流れ(＝関係人口創出)**には一定の成果が得られており、今後はその**成果をいかに拡大させ、このエリアの経済振興につなげていく**が求められている。



◆今後の取組方針について

今後の本事業取組み方針について

ポイント：2市行政の連携、観光・移住定住の施策間連携による成果づくり

次年度以降の展開の方向性

1)局枠事業の検証、チャレンジの成果をいかに波及させるか

- ・関係人口の受け皿となる拠点の強化
- ・拠点利用活性、エリア内回遊の仕組み
- ・中長期滞在者ニーズ調査・分析 など

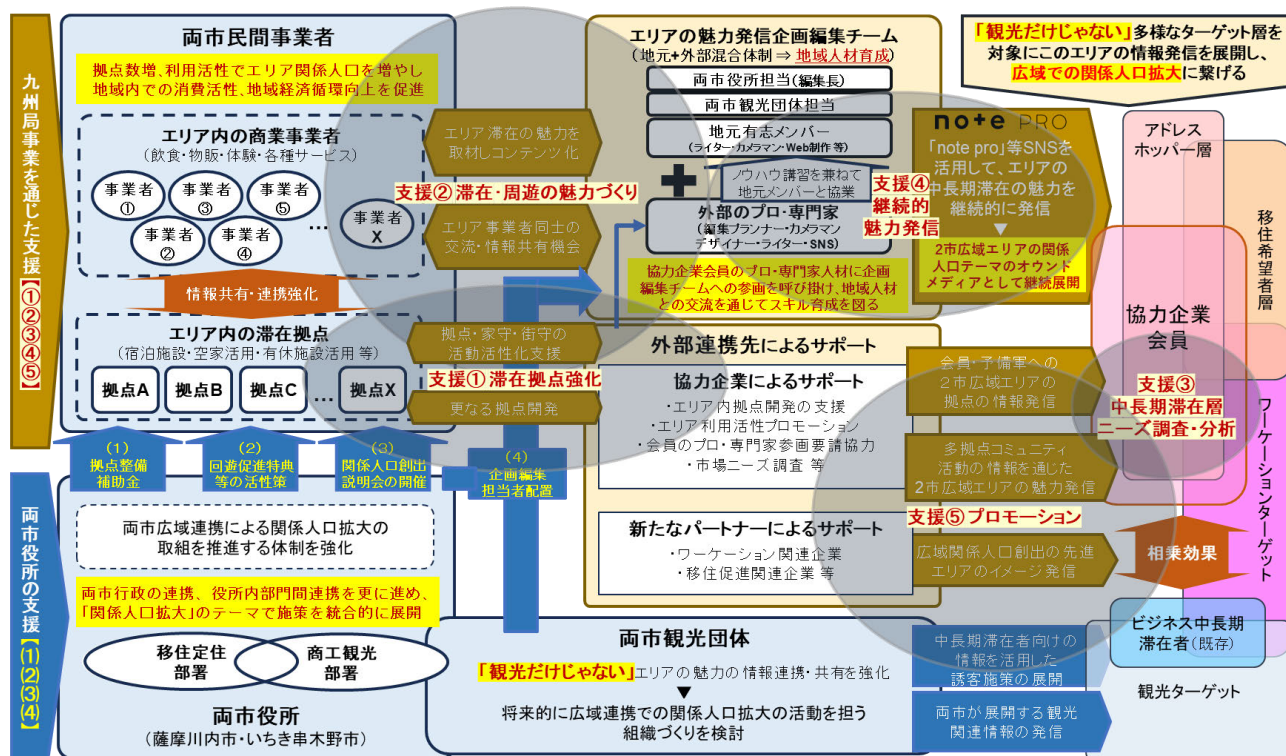
2)観光・移住定住の施策間連携でいかに相乗効果を生むか

- ・中長期滞在層と観光ターゲット双方に効果的な魅力発信
- ・既存観光施策との相乗効果を生む仕組み

3)両市行政の広域連携でいかに相乗効果を生むか

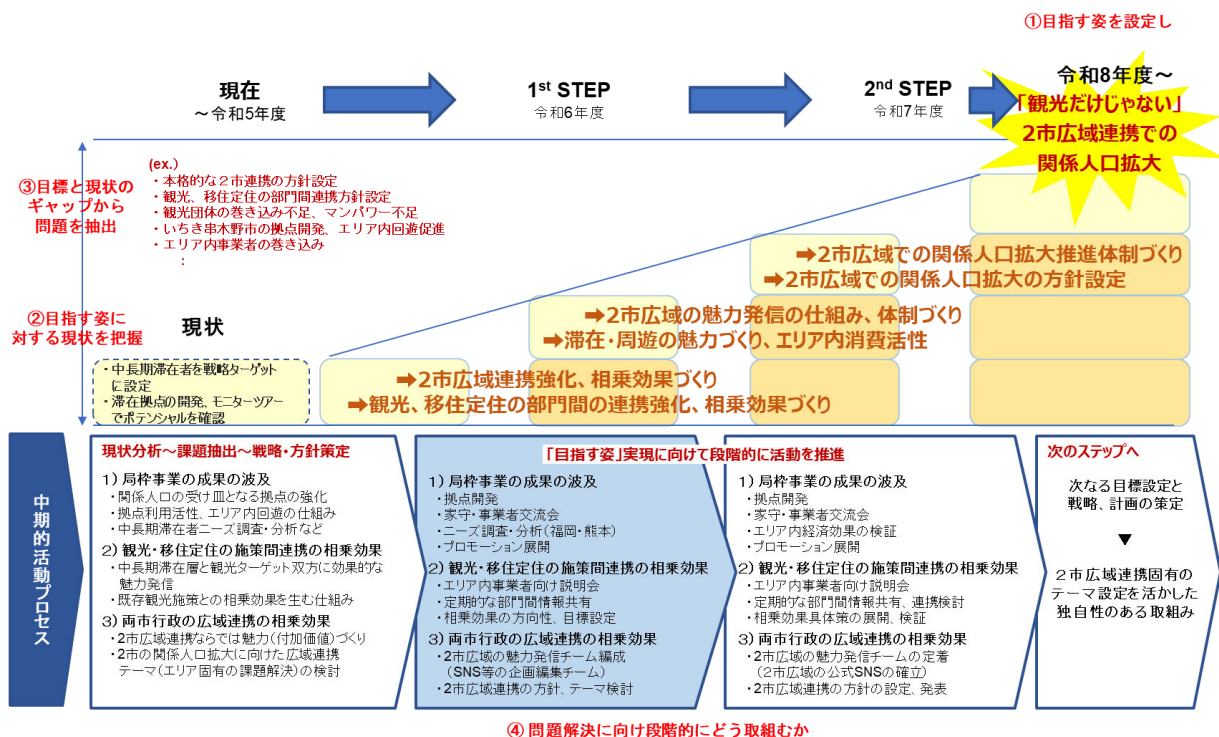
- ・2市広域連携ならではの魅力(付加価値)づくり
- ・2市の関係人口拡大に向けた広域連携テーマ(エリア固有の課題解決)の検討

今後の事業展開の全体像：「観光だけじゃない」2市連携による広域での関係人口創出&地域人材育成事業



◆今後の取組方針について

今後の事業展開のプロセス : 「観光だけじゃない」2市連携による広域での関係人口創出&地域人材育成事業



令和6年度事業骨子

次年度以降の中長期的な方向性を踏まえ、まずは令和6年度事業ではどう取り組むか？

1. 2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり (広域連携体制構築)

本事業の主体である島内・本土事業者、両市役所及び観光団体関係者を中心とした計画検討会を運営し、下記2.①～⑤を実施するための体制構築・計画策定・準備等を行う。

2. 「観光だけではない」2市連携による関係人口拡大戦略の検討・推進

- ①滞在拠点の強化
- ②滞在する魅力、周遊する魅力づくり
- ③中長期滞在者のニーズ調査・分析
- ④継続的な魅力発信の仕組み(2市連携のオウンドメディア)づくり
- ⑤九州圏内への認知拡大を図るプロモーション展開

◆今後の取組方針について

R6年度 取組内容検討のための企画

①滞在拠点の強化

- 1) 拠点開発支援 (自治体からの候補リストへの対応が基本)
いちき串木野市を最優先に本土側の拠点候補運営者への事業説明、助言等に対応し、拠点契約までを支援。
- 2) 拠点の活性化支援
既存拠点の稼働状況や会員からの評価等を踏まえ、各拠点運営者に対してハード、ソフト両面の改善点や会員対応へのアドバイス等を提供。
- 3) 地域向け説明会、相談会対応
両市で協力企業拠点に関心を持つ層(空家・賃貸物件オーナー、宿泊施設オーナー等)を対象に、事業説明会、個別相談会等に対応。

②滞在する魅力、周遊する魅力づくり

- 1) エリア内交流会 (家守、関連事業者の情報共有、交流の場)
既存拠点の家守、拠点周辺の飲食、体験等の事業者を中心に、本取組に関心のある地域事業者を集めての情報共有、交流の場を設定。中長期滞在者を対象とした関係人口づくりの取組み状況、拠点稼働状況、滞在者の声などを共有し、来訪者のエリア内での回遊促進や消費活性化のための工夫や協力の仕組みについても検討。
- 2) エリア滞在の魅力を取材し発信
④のオウンドメディア活動の一環として、企画編集チームによるエリア内の魅力を取材しコンテンツ化する。家守や協力企業会員等滞在者のインタビューや拠点とその周辺での中長期滞在ならではの過ごし方を取材・編集し映像やWebコンテンツを通じて発信。
エリア内の拠点とその周辺のおすすめ情報を紹介するツール(チラシ等)の制作も検討。

③ニーズ調査・分析

- 1) ワークेशनニーズ調査・分析 (福岡、熊本を対象市場と想定)
福岡(幹線アクセス)や熊本(自家用車アクセス)などを対象エリアとして、ワークेशनを積極的に展開している企業等の協力で、3エリアのワークेशनに対するアンケート、インタビュー等を実施。結果の分析から本エリアでのワークेशन活性化の課題を抽出し解決策を検討。
- 2) スタディツアーの検討 (両市広域でのテーマとカリキュラム開発) ※観光団体参加
国内先進地の事例調査や専門家の支援を受けながら、本エリアでのスタディツアーの可能性について研究し、具体的なテーマやカリキュラムの検討を行う。スタディツアーに関心のある企業等を協力パートナーとしてモニターツアー等を行い、将来的な商品化、両市観光団体の「売り物づくり」につなげる。

R6年度 取組内容検討のための企画

④継続的な魅力発信の仕組み(2市連携のオウンドメディア)づくり

- 1) 3エリア魅力発信企画編集チームの編成
2市行政、観光団体、民間が連携して3エリアの魅力を掘り起こし、SNS等を活用して継続的に発信する「3エリア魅力発信企画編集チーム(仮称)」を編成。専門家の支援を受けながら、体制づくり、活動計画づくりを行う。
- 2) 協力企業会員を講師としたワークショップ
魅力発信の体制、仕組みづくりは、取材・ライター・撮影等専門的知見を持つ協力企業会員を講師に迎え、地域の人材はワークショップ形式で企画、取材、編集から情報発信までを実践的な取組を通じて経験しながら学ぶプログラムとする。
年間数回のワークショップを経て、地元人材がスキルを身に付け、将来的に継続的な情報発信の担い手となることを狙った取組とする。
- 3) 既存観光施策との相乗効果の企画・トライアル ※観光団体参加
新たなターゲットである中長期滞在者層と既存の観光ターゲット双方に効果的な魅力発信や相乗効果を生む仕組みを観光団体と共に検討。既存の観光施策の稼働状況やエリア内の入込情報等の分析、③のニーズ調査の結果を踏まえ、新しい情報発信の方法等を専門家の支援を受け企画、トライアルを行う。

⑤九州圏内への認知拡大を図るプロモーション展開

- 1) 九州圏内でのメディア活用プロモーション展開
本事業を通じて薩摩川内市、いちき串木野市が連携して観光だけでなくとどまらない3エリアの魅力や関係人口拡大に取組んでいる経緯を発信し、県内および九州管内等での3エリアの認知度向上を図るために、九州管内のメディアを活用したプロモーション展開を検討・実施。
ex.福岡エリアの新聞、FM等メディアとタイアップし、3エリアの中長期滞在やワークेशन受入れの取組について情報発信。
- 2) 地元メディアを活用したパブリシティ展開
本事業での様々な取組を鹿児島県内のメディアを通じて発信するために、モニターツアーやワークショップ等、事業の取組をプレスリリースで配信し取材誘致、記事露出を図る。

◎その他

- 1) 協力パートナー企業とのタイアップ企画
協力企業をはじめとする協力パートナー企業の取組と連携して、3エリアの魅力づくりや情報発信につなげる取組
ex. ターゲット向け情報発信、ワークेशनや移住体験のモニターやトライアル、
- 2) 両市観光団体連携による補助事業申請
観光庁や経産省等が公募する観光や関係人口拡大を対象とした補助事業に両市観光団体として申請。事務局、専門家が申請の計画づくりを支援。

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業
(周辺地域と連携した甌島地域の観光活性化に係る調査事業)

(1) 2市広域連携の更なる推進のためのデザインづくり(広域連携体制構築)

- 計画検討会 5回程度
- 協議会(事業進捗の報告・共有) 2回

○第1回計画検討会

■ 日時 2023年8月7日(月) 9時45分開場 10時開始

■ 会場 薩摩川内市役所 401会議室／オンライン

■ 議事

1. 九州経済産業局 ご挨拶

2. 出席者ご紹介

3. 議題

1) 昨年度までの活動の振り返り～今年度の計画(案)の共有 (事務局より)

2) 今年度活動に関する協議

3) まとめ

(出席者：敬称略)

< 薩摩川内市 >

薩摩川内市役所 観光物産課

株式会社 薩摩川内市観光物産協会

< いちき串木野市 >

いちき串木野市役所 シティセールス課

NPO法人鹿児島いちき串木野観光物産センター

< 九州経済産業局 >

電力・ガス事業課

< 事務局 >

コムブレインズ

■ 協議内容

- ・ 第1回計画検討会として、キックオフ打合せを実施。
- ・ 昨年度までの振り返りを経て今年度の計画案について説明を行った。
- ・ 大枠の方向性に加え、付随する要素などについて意見交換を行い、モニターツアーの検討につなげることとした。
- ・ 次のタスクとして、両市からはモニターさんに活用いただける補助の情報や家守候補の情報を提供いただくとし、事務局の方では本日の協議内容を専門家や協業パートナーへ共有し段取りの調整を進めることとする。

○第2回計画検討会

■ 日時 2023年10月13日(金) 14時45分開場 15時開始

■ 会場 いちき串木野市役所会議室／オンライン

■ 議事

1. 開会・参加メンバー紹介
2. 議題
 - 1) これまでの進捗状況の共有 (事務局より)
 - 2) モニターツアー、オンラインイベントについて (事務局より)
 - 3) 中長期滞在者向けの3エリアの魅力発信について (専門家)
 - 4) まとめ

(出席者：敬称略)

<薩摩川内市>

薩摩川内市役所 観光物産課

株式会社 薩摩川内市観光物産協会

<いちき串木野市>

いちき串木野市役所 シティセールス課

※NPO法人鹿児島いちき串木野観光物産センターは今回欠席

<九州経済産業局>

電力・ガス事業課

<専門家・協力会社>

<事務局>

コムブレインズ

■協議内容

- ・第2回計画検討会として、モニターツアー・オンラインイベントに向けた打合せを実施。
- ・事務局での準備状況を踏まえて、行程やイベント内容案について説明を行った。
- ・専門家からは、中長期滞在者向けの3エリアの魅力発信の方法について提案し、意見交換を行った。
- ・次のタスクとして、両市は専門家より提案のあった情報発信に対する検討を進めること、事務局ではモニターツアーの準備を引き続き行う予定とする。

○第3回計画検討会

■ 日時 2023年11月6日(月) 9時45分開場 10時開始

■ 会場 薩摩川内市役所401会議室（本庁舎4階）／オンライン

■ 議事

1. 開会・参加メンバー紹介
2. 議題
 - 1) モニターツアー・オンラインイベント振り返り（事務局より）
 - 2) 今年度事業の着地、次年度以降の取組み方針について協議
 - 3) まとめ

（出席者：敬称略）

< 薩摩川内市 >

薩摩川内市役所 観光物産課

株式会社 薩摩川内市観光物産協会

< いちき串木野市 >

いちき串木野市役所 シティセールス課

< 九州経済産業局 >

電力・ガス事業課

< 事務局 >

コムブレインズ

< モニター > ※オンライン参加

協力企業会員、協力企業拠点家主

■ 協議内容

- ・ 第3回計画検討会として、モニターツアー・オンラインイベントの振り返りと共に、帯同したスタッフおよびオンライン参加のモニターから感想を貰い、意見交換を行った。
- ・ 事務局での準備状況を踏まえて、行程やイベント内容案について説明を行った。
- ・ 次のタスクとして、両市には今年度事業の締めくくりとして市長への報告の場を設ける準備をお願いし、事務局ではモニターからのアンケートを収集・取り纏め、次年度の方向性を定めるための土台として整理する予定。

○第4回計画検討会

■ 日時 2024年1月18日(木) 12時45分開場 13時開始

■ 会場 薩摩川内市役所会議室（602会議室）

■ 議事

1. 開会・参加メンバー紹介

2. 議題

1) 今年度事業の着地、スケジュールの検討

2) 次年度骨子（現状素案）、次年度以降の取組み方針について協議

3) まとめ

（出席者：敬称略）

< 薩摩川内市 >

薩摩川内市役所

経済シティセールス部観光物産課

未来政策部

産業人材確保・移住定住戦略室

企画政策課地域デザイン・移住定住グループ

株式会社 薩摩川内市観光物産協会（欠席）

< いちき串木野市 >

いちき串木野市役所

シティセールス課

NPO法人鹿児島いちき串木野観光物産センター（欠席）

< 九州経済産業局 >

電力・ガス事業課

< 事務局 >

コムブレインズ

■ 協議内容

- ・ 協力企業の拠点開発後、モニターツアーの情報発信も経て拠点への来訪実績を報告し、これまでの振り返りと今後の方向性について意見交換を行った。
- ・ いちき串木野市内の拠点開発や、両市観光団体のビジネスに寄与するための観光としての成果の出し方や、今期協力企業1社のみに頼らない施策等が課題として意見が挙がり、今後継続的に検討を進める。

○第5回計画検討会

■ 日時 2024年2月15日(木) 14時50分開場 15時～17時

■ 会場 いちき串木野市 中央公民館会議室

■ 議事

1. 開会・参加メンバー紹介

2. 議題

1) 今期の振り返り、専門家からの提言紹介

2) 市長・副市長ほか庁内報告状況の共有

3) 次年度以降の取組み、R6年度実施内容案について意見交換

4) まとめ

(出席者：敬称略)

<薩摩川内市>

薩摩川内市役所 観光物産課

産業人材確保・移住定住戦略室

株式会社 薩摩川内市観光物産協会 (欠席)

<いちき串木野市>

いちき串木野市役所 シティセールス課

企画政策課

NPO法人鹿児島いちき串木野観光物産センター (欠席)

<九州経済産業局>

電力・ガス事業課

<事務局>

コムブレインズ

■ 協議内容

- ・今年度事業の振り返りと、専門家による活動レポートを共有。次年度以降の活動の方向性、令和6年度事業の実施内容等について意見交換を行った。
- ・中長期滞在者をターゲットとした展開と既存の観光ターゲットを対象とした展開の両方を意識した取組み、観光団体を巻き込んだ取組みに留意するとの意見が挙がり、プロモーション展開については、発信する内容をつくることを優先するべきではないか、との意見も出た。
- ・今回の意見交換を踏まえ、次年度に向けて展開を検討することとなった。

○第1回協議会

■ 日時 2023年10月30日(月) 14時開始

■ 会場 オンライン開催

■ 議事

1. 開会

2. 議題

1) モニターツアー・オンラインイベントの実施内容確認

2) 今年度事業の今後の取組み内容、スケジュール等確認

3) その他

(出席者：敬称略)

<薩摩川内市>

薩摩川内市役所 観光物産課

<いちき串木野市>

いちき串木野市役所 シティセールス課

<九州経済産業局>

電力・ガス事業課

<事務局>

コムブレインズ

■協議内容

- ・今期のここまでの取組みの進捗状況の確認と、11月のモニターツアーの内容について協議を行った。
- ・今回の協議内容を踏まえ、モニターツアーに向けて準備を進めることとなった。

○第2回協議会

■ 日時 2024年2月9日(金) 16時～17時

■ 会場 オンライン開催

■ 議事

1. 開会
2. 議題
 - 1) 検討会開催に先立ち、議題・資料の確認
 - 2) 今年度事業の残タスクの確認
 - 3) その他

(出席者：敬称略)

<薩摩川内市>

薩摩川内市役所 観光物産課

<いちき串木野市>

いちき串木野市役所 シティセールス課

<九州経済産業局>

電力・ガス事業課

<事務局>

コムブレインズ

■協議内容

- ・第5回の計画検討会に向けて、次年度以降の取組み方針等を精緻した各種資料内容の確認と、当日の議事進行について協議を行った。
- ・今回の協議内容を踏まえ、5回目の計画検討会を実施することとなった。

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業
(周辺地域と連携した甌島地域の観光活性化に係る調査事業)

(2) 中長期滞在者をターゲットとした具体的な観光戦略の検討
(広域ルート開発、広域観光推進)

- ① 体験型旅行商品の開発
- ② 滞在拠点の開発支援(広域ルート開発、広域観光推進)

①体験型旅行商品の開発

1. 体験型旅行商品についての検討状況

●計画検討会等での協議

昨年度来、計画検討会等を通じて、専門家から3エリアの観光振興への助言や様々な参考事例等の提供を受け、検討を重ねてきた。ポストコロナ以降、ワーケーションやスタディツアー、アドレスホッピング等、観光だけに留まらない関係人口の新しい潮流についての学びを得て、今年度事業では、「中長期滞在者」をターゲットとした、3エリアの可能性を調査するモニターツアーを実施することとした。

●モニターツアーの企画・実施(具体的な旅行プランの企画や体験プログラムの拡充検討のための調査)

モニターツアー企画にあたっては、両市行政・観光団体、観光関係事業者(拠点運営者)の協力を得て検討、準備にあたった。中長期滞在者ターゲットであることから、モデルコースや行程を詳細に設定するのではなく、滞在拠点とその周辺の体験や飲食等の情報提供や拠点運営者のおすすめ等から、来訪者自身がそれぞれのニーズに応じた過ごし方を選定してもらうこととして、拠点運営者に加え、行政・観光団体から、3エリアの飲食店や体験等のスポットや観光情報等を収集し、事前にモニター参加者に提供、モニターツアー滞在時のエリア回遊状況やアンケート、拠点稼働状況データ等を通じて、満足度や費用対効果などを分析し、3エリアの関係人口拡大に向けた今後の活動方針、具体的内容の検討につなげることにした。

●モニター参加者

モニターツアー参加者は本事業の協力先である他拠点居住サービス企業の会員の内、サービスの長期利用者数名との調整を経て3組(4名)を選定。参加メンバーの移動旅費の一部補助を条件に、モニターとしての参加、事後のアンケート協力等を依頼した。



●モニターツアー実施日程・行程 : 2023年11月2日(木)~5日(日) 4日間

- ・11/2(木) 午後:モニター集合⇒市比野温泉での滞在・宿泊
- ・11/3(金祝) 午前:市比野温泉滞在⇒いちき串木野市移動
午後:いちき串木野市滞在・宿泊
- ・11/4(土) 午前:いちき串木野市⇒甑島移動

●展開場所 : 滞在拠点(エリア内3か所)とその周辺

- ①本土:薩摩川内市 :市比野温泉 弁天堂(11/2)
- ②本土:いちき串木野市 :羽島おためし住宅(11/3)
- ③甑島:FUJIYA HOSTEL、niclass (11/4)

●モニターツアー実施後の検証

モニター参加者のアンケート、ヒアリング、オンラインイベントでの意見等から、3エリア広域の滞在の魅力づくりや情報発信の在り方、経済波及効果を高めるための課題抽出等を調査分析したレポートを作成。両市行政・観光団体・拠点運営者とも共有し、旅行商品化に向けた満足度の検証や今後の活動の検討にフィードバックした。※フィードバックまとめはP41参照

旅行商品化に向けた費用対効果の検証は、協力企業から拠点稼働状況データの提供を受け、拠点の収益、拠点利用者の消費想定等から地域への経済効果の参考指標を算出した。 ※P42参照

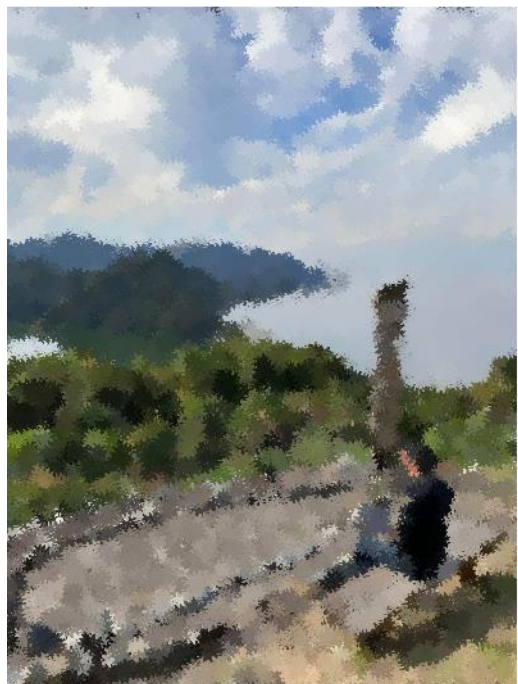
モニターツアーの様子 (11/2～3 薩摩川内市 市比野温泉エリア、薩摩川内市内)



モニターツアーの様子（11/3 いちき串木野市エリア）



モニターツアーの様子 (11/4～5 薩摩川内市 甕島エリア)



オンラインイベントの様子 (11/4 薩摩川内市 甑島 里集落 オソノベーカリー)

【本日のオンラインイベント】

月額制多拠点生活サービスを提供する株式会社アドレスと甑島を含む薩摩川内市、いちき串木野市の事業者がタッグを組んで実現した、中長期滞在者向けモニターツアー開催に合わせたトークイベント



【関係資料】

モニターツアーからのフィードバックまとめ

エリア全体へのフィードバック

【魅力ポイントとポテンシャルについて】

- 「島」の**非日常性**、目的地としての魅力を持つ**甕島**を含むこのエリアはアドレスホッパーにとって魅力的である。
- 九州外から見ると**“異国感”**がある。特に離島はその雰囲気がいずれも強く、魅力に映る。
- 芋焼酎・酒蔵・温泉・海など、広域で見ると**地域資源の魅力は十分**(島と本土で相互補完できる)
- 鹿児島全体をめぐる時や、甕島への渡航を前提とした時の**中継地として**のポテンシャル
- 離島内+本土にも**複数拠点があることは強み**(日置市や阿久根市などさらに広域も含め拠点が点在していることは強み)

拠点・家守へフィードバック

【協力企業会員のような中長期滞在者の誘客・滞在時の満足度向上に向けて(設備面)】

- 会員にとっては**協力企業サービスの拠点が目的地になる**
- 仕事ができる**PC作業場所**は必須、複数あると強い
- 自炊や洗濯などの中長期滞在用の**生活設備**が必要

【コミュニケーション面】

- 地域の人と**交流**でき、**歴史情報**やおすそめを教えることは魅力、**仲良くなることでリピート**に繋がる
- 誰がオススメしているかが重要、**家守のおすそめ**や、**会員の口コミ**は重視される
- 特別な観光体験ではなく日常の暮らしの体験を楽しむ、**地元の人がよく行く店／仕事の手伝い・ボランティア情報**などが欲しい
- 100%もてなそうとするのではなくご自身が疲れない範囲で自然に**程よい距離感**で接すると良い

行政へのフィードバック

- 地元の方々に**賃貸以外の選択肢として協力企業のようなサービスがある**ということを伝える機会をつくってほしい
- 自治体が**拠点への経費補助**をする仕組みがあると良い
- ふるさと納税に**船券**などがあると良い、多拠点生活者は生ものを受け取るのが難しいため、交通の返礼品は重宝する
- 拠点の内外で「**ウエルカムな地域**」をつくるとよいと思う

＜旅行商品化に向けた 満足度の検証＞

参加モニターのアンケート、ヒアリングからも3エリア滞在を通じた魅力度や満足度については高い評価を得ており、中長期滞在地としてのポテンシャルにも可能性を感じるという意見をいただいた。拠点運営者や行政に対する改善や工夫のヒントとなるコメントも多くいただいております。今回のモニターツアーからのフィードバックを参考に、3エリアの更なる魅力度、満足度の向上に取り組んでいくことが求められる。

【関係資料】

費用対効果の検証

既存拠点の稼働実績情報

【稼働状況】

- 甌島A邸 6名 19泊 (11/24~1/31)
予約可能日47 休止日21 稼働率 40.4%
1泊…1名 2泊…2名 3泊…1名 5泊…1名 6泊…1名
- 薩摩川内A邸 15名 36泊 (11/20~1/31)
予約可能日68 休止日4 稼働率 52.9%
1泊…4名 2泊…3名 3泊…6名 4泊…2名
・ 11/20~1/31の72日間で 延べ21名が55泊 薩摩川内A邸、甌島A邸に滞在
→ 1か月あたりの2拠点の宿泊者数 約23泊 (72日/30日 × 55泊 = 22.9泊)

【拠点開発状況】

- 甌島では、B邸、C邸の2軒（下甌 手打）との新規契約調整が進んでおり、2月中には予約開始の予定
- 今後はいちき串木野市内を最優先に拠点開発を行う（最低1軒の開発を目標）

期待される経済効果の推計

【拠点の稼働、拠点利用者の消費額からの推計】

● 拠点稼働による収益

各拠点の契約月額 = 平均2.5万円として

3拠点 × 2.5万円 = 7万5千円/月

● 拠点利用者の消費額推計 ※鹿児島市観光統計(H27)の県外客の値を参考に設定

1人1日あたり消費額 約1万7千円として（内訳：交通費 8千円 土産等の費用 9千円）

23泊(1月あたり宿泊者数) × 1万7千円(1人あたり消費額) = 39万1千円/月



● 既存3拠点の稼働で創出される収益額・消費額の推計 ※関連産業の波及効果は含まない

・ 1か月あたり 46万6千円/月 (7万5千円 + 39万1千円)

・ 1年間あたり 559万2千円/年 (46万6千円 × 12月)



● 新たな拠点開発を想定した収益額・消費額の推計

最終調整中の甌島の2軒と、いちき串木野市での拠点目標1軒の開発が実現した場合、合計6拠点が稼働することとなり、既存3拠点の推計額の約2倍程度の収益・消費創出が見込まれる。

1年あたり 1118万4千円/年 (559万2千円 × 2)

⇒ 今期は簡易な推計額での算出だが、次年度以降、より詳細な対費用効果や経済効果を高めるための工夫などを含めて調査・分析を行うこととする

②滞在拠点の開発支援（広域ルート開発、広域観光推進）

＜滞在拠点開発の考え方＞

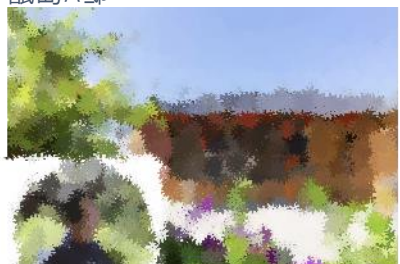
中長期滞在者をターゲットとした「住み放題サービス」協力企業の協力により、3エリアの滞在拠点開発に取組み、併せて、モニターツアーを通じて、拠点滞在の楽しみ方や3エリアの回遊を促進するためのヒントを得ることを目的として取組んだ。

■拠点開発状況

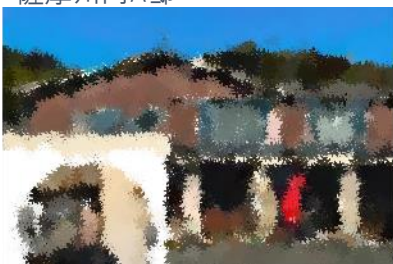
甑島と両市本土側にそれぞれ拠点を開発することを目標に取組んだ結果、甑島には上甑島、下甑島それぞれ1物件、薩摩川内市本土の市比野温泉に1物件が稼働開始できた。いちき串木野市は、白浜温泉の物件の交渉を行ったが、既に宿泊施設として稼働しており、稼働率も悪くないことから、中長期滞在者向け拠点としての活用には至らなかった。モニターツアー期間はいちき串木野市が管理する「移住お試し住宅」を拠点として活用することとして、いちき串木野市と調整を進め、期間中は拠点として利用することができた。

今期事業で開発された物件は以下の3物件（4室） ※うち1物件（2室）は2月末オープン見込
FUJIYA HOSTEL 市比野温泉 湯宿弁天 室原邸(下甑島) ※2月末見込み

甑島A邸



薩摩川内A邸



甑島B、C邸



物件数は3物件4室を開発できたが、いちき串木野市内の物件をオープンすることができなかった。来期に向けて再度候補物件を選定し、継続的に提携の打診を行いたい

■拠点の稼働実績情報（2/1現在）

- ・ 甑島A邸 6名 19泊（11/24~1/31）
予約可能日47 休止日21 稼働率 40.4%
1泊…1名 2泊…2名 3泊…1名 5泊…1名 6泊…1名
- ・ 薩摩川内A邸 15名 36泊（11/20~1/31）
予約可能日68 休止日4 稼働率 52.9%
1泊…4名 2泊…3名 3泊…6名 4泊…2名
- ・ 11/20~1/31の72日間で 延べ21名が55泊 薩摩川内A邸、甑島A邸に滞在
- ・ 2名が甑島A邸、薩摩川内A邸をどちらも利用
- ・ 1泊利用は全体泊数の9% 9割以上の会員が2泊以上の滞在

■滞在拠点活用の検討状況

モニターツアー参加者アンケート・ヒアリング、オンラインイベントでの発言等の収集分析を通じて、中長期滞在者をターゲットとした拠点活用について検討し、今後の活動の方向性を導き出した。

1) 宿泊施設（滞在拠点）を中心とした地域との交流

アンケート、ヒアリングでは、拠点管理者（=家守）を通じた地域交流を求める傾向が高いことから、家守から周辺地域の飲食、体験、近隣拠点の情報提供を促す仕組みづくりが求められる。

2) 周辺エリアの観光

観光パンフの情報よりも家守や地元生活者の推奨によって行動を選択する傾向が強いことから、各拠点で家守が周辺情報を提供できるツール（チラシ等）の展開等も有効と考えられる。

3) 提供できる付加価値

通常の観光ツアーと異なり、地域の人たちとの交流を通じた「地元ならではの体験」に価値を感じる傾向が強いことから、拠点を中心とした地域との交流機会、接点を増やし、地域ならではの食や体験、特産品の購入等エリア内での消費を促す工夫が必要である。

令和5年度原子力発電施設等立地地域基盤整備支援事業
(周辺地域と連携した甌島地域の観光活性化に係る調査事業)

(3)継続的な魅力発信(プロモーション)

(3) プロモーション展開内容案

<プロモーション展開の考え方>

今年度展開は、中長期滞在者という本事業で設定した新たなターゲットを対象としたトライアル展開であることから、通常のメディアによるプロモーション展開ではなく、展開パートナーである協力企業の協力による情報発信を中心に、その他は地元メディアのパブリシティ展開による情報発信を想定して計画、実施した。

<実施内容>

1) 協力企業連携オンラインイベント

モニターツアー期間中に、甌島からのライブ中継配信でオンラインイベントを実施。当日の配信に加え、事前告知や事後のアーカイブ配信等で同社サービスの会員をはじめとするアドレスホッパー、ワーケーション、移住定住に関心を持つ層に3エリアの取り組みや新たに開設された協力企業拠点をアピールした。

2) モニターツアーを契機とした情報発信

本事業のモニターツアーを契機として、モニター参加者や協力企業関係者によるSNSを中心とした情報発信を行った。

◆協力企業 Webサイトでのオンラインイベント告知



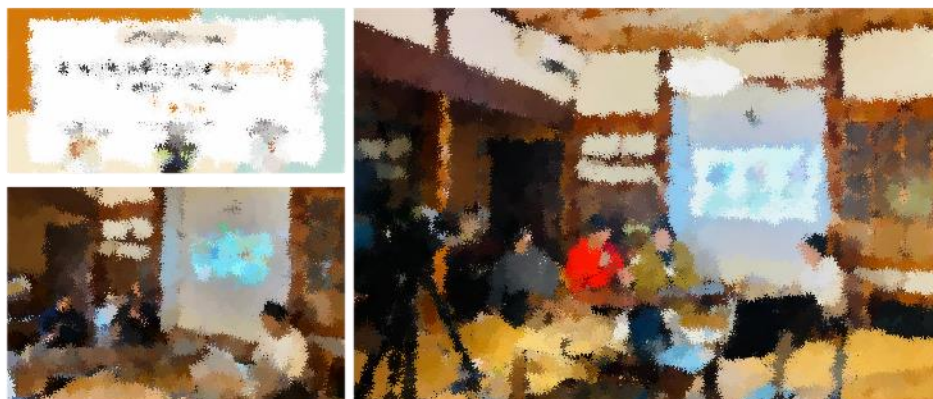
◆協力企業 YouTubeチャンネルでの動画アーカイブ



◆協力企業 連携オンラインイベント（視聴人数・開始時35名、最大数44名）

【本日のオンラインイベント】

月額制多拠点生活サービスを提供する株式会社アドレスと甌島を含む薩摩川内市、いちき串木野市の事業者がタッグを組んで実現した、中長期滞在者向けモニターツアー開催に合わせたトークイベント



2) モニターツアーを契機とした情報発信

本事業のモニターツアーを契機として、モニター参加者や協力企業関係者によるSNSを中心とした情報発信を行った。

モニター3名ともにフォロワー、ファンの多い影響力のある人物だったため、滞在記や写真も含めたツイート、投稿などでのインプレッションも多かった。

◆参加者のSNSでの発信



◆モニター以外の関係者からの発信も多数あり、こちらも多くのインプレッションを獲得し、3エリアの認知向上、ブランド力のアップに一定の効果があったと思われる。

